

私は見いだされた

シッダ・ヨーギによる感謝の体験談

7歳の時、私は手にひどいけがをしました。けがをした日の夜は、耐えられないほどの痛みでした。たった一つだけ思いついたのは、ベッドに座って、この痛みに耐えられるようにと神に祈ることでした。

涙をためて何時間も祈った後、フルートが鳴っているのが聞こえました。それは、深く、ゆっくりとした美しいメロディーでした。私は部屋の中で立ち上がり、それがどこからやってくるのか確かめようとしたのですが、それはあちらからもこちらからも聞こえてくるようでした。この音に本当に心を奪われたので、その夜はずっと、手の痛みを完全に忘れて、ベッドの端に腰掛けていました。

この出来事後、二つの意味深いことが起こりました。まず、私の手がすっかり治ったのです。次に、それよりはるかに重要なことなのですが、私の内側で、神を知りたいという燃えるような強い願望が湧き起こったのです。あのフルートの夜に何が起きたのか十分に理解していませんでしたが、それが神への祈りに関係していることは分かりました。私にはものすごく多くの疑問がありました。ほとんど答えはありませんでした。その後の15年間、私は神を求めてさまざまな宗教の道や、哲学を探求しました。多くの道は、慰めとなりましたが、私は神の直接的な体験が起こり得ると、心の中で分かっていました。

1982年、私が大学4年の時に、友達から電話をもらいました。彼女は、「私、瞑想の師に会って家に帰ってきたところなの。あなたはニューヨークまで行って、彼に会った方がいい」と言いました。私は、すぐには旅に出ることができないと答えました。彼女は、ただ、こう言いました。「わかった、ではこの言葉を書き留めて」。それに続けて、ゆっくりと、マントラ、オーム・ナマー・

シヴァーヤと、スワーミ・ムクターナンダの名前のつづりを伝えてくれました。私はその言葉を書き留めて、丁寧にお礼を言って電話を切り、工学の勉強に戻りました。

その日の夜、眠っていると夢を見ました。私は道端に立って、神を知りたいという燃えるような強い願望の渴きを癒やすために何をすべきか探し当てようとしていました。生まれてからの22年間のうち15年も費やしてきたこの心の痛みを、どうにかして止める方法があるはずでした。遠くから、小さな白いゴルフカートが、その上部に青い光を点滅させながら私の方にやって来るのが見えました。近づくと、インド人の男性が運転しているのです。私の前で停車すると彼は、「乗りなさい」と言いました。私は、「私はどこにも行きません」と答えました。彼は答えました。「わかっている。だから乗らなければならないのだ！」私が席に着くと、カートは発車しました。少しの間、沈黙の後、カートの運転手は言いました。「私はスワーミ・ムクターナンダだ。あなたは今まさに、シッダの道の伝授を受けた。それは完成した道だ。完全な道だ。あなたはただ、グルの命令に従えばいい」

その翌週、友達は私をシカゴのシッダ・ヨーガ・瞑想センターのイブニング・サツァングに誘ってくれました。そのサツァングの最中、皆が「ゴーヴィンダ・ジャヤ・ジャヤ、ゴーパーラ・ジャヤ・ジャヤ」をチャンティングし始めました。

チャンティングが進むにつれて、私は、まったくあり得ない、あるものを耳にしました。私は思いました。「まさか、こんなことが起こるなんて！」瞑想のホールに座りながら、私はあの時と同じく美しいメロディーを奏でているフルートが、15年前、7歳の時に聞いた、まさに同じメロディーを演奏しているのを聴いたのです。この時も、以前と同じく、その音は、あちらからもこちらからも響き渡っていました。次々と湧き起こる喜悦の波に洗われながら、心を捉える音に我を忘れしました。あふれる涙が私の瞳からこぼれ落ちました。それは、苦痛やイライラや切望の涙ではありませんでした。私がこれまで体験した中で最も素晴らしい喜びと愛の涙でした。その瞬間に、私の魂は再会の喜びを体験して、数々の疑問は終わりを迎えました。

バーバ、この愛の贈り物をありがとうございます。グルマーイ、それを生かし続けてくださり、ありがとうございます。

～米国、ミズーリ州のシッダ・ヨーギ



© 2021 SYDA Foundation®. 著作権所有。